

第18回 口腔機能って何だろう？

＝ 「口腔機能」は、認知機能の改善によってその機能は改善される ＝

北九州在宅医療・介護塾
塾長 久保 哲郎

前回は、口腔機能改善を図るためには、療養者に“人”として寄り添い、“心の在り方”に対して配慮することを紹介しましたが、今回は、感覚機能と運動機能の連携を図る認知機能の改善について紹介します。

認知機能の改善方法としては、一般的には、①バリデーション療法、②タッチケア療法、③回想法等が現在病院や施設等で行われていますが、「口腔機能改善」に対しても使用できます。

先ず「バリデーション療法」についてですが、アメリカのソーシャルワーカーであるナオミ・フェイルさんによって考案された認知症者とのコミュニケーション技法で、認知症者の言動の奥にある“真の訴え”を理解することを重視しています。バリデーションで特に重点をおいているのは「傾聴」の姿勢で、「傾聴」することによって認知症者が見ている世界を教えて戴くことで、認知症者の閉ざされた“心”を開き、感情や

思いに近づこうとする技法で、14の基本的テクニックがあるといわれています。

次に「タッチケア」についてですが、スウェーデンで50年ほど前から行われている技法で、認知症者の“心”を愛しみながら、両手で相手の手を包み込むようにして、「気持ちよいた感じる」ようにゆっくりとマッサージすることで、不安や怒りといったネガティブな感情や暴言、徘徊、介護拒否等の他、所謂BPSDが減少するといわれています。

最後に「回想法」についてですが、過去を語り合うことで精神が安定し、「会話する」、「傾聴する」等によって「コミュニケーションを構築する」効果が得られることで、結果として認知機能の改善に繋がるといわれています。

「口腔機能改善」を図るための一助として、これらの方法の活用によって認知機能の改善に取り組まれてはどうでしょうか。

口腔機能改善を図るには・・・

- 療養者に「人」として寄り添い、「心の在り方」に配慮する。
- 認知機能改善を図る。
- 感覚機能改善を図る。
- 口腔運動機能改善を図る。
- ご本人、介護家族や多専門職種との連携・協働を図る。